

B-77 絹の洗たくに関する研究 (第12報)
洗剤の種類と洗たく堅ろう度との関係

農林省蚕糸 皆川 基
学習院女子短大 斎藤 道香
石野 尚子

1. 染色絹布の洗たく堅ろう度はJ I Sに規定されたセッケンを用いて判定されるが、実際の洗浄時にはセッケン洗剤はほとんど用いられず、絹布の洗たくには多くの場合ライトデュティ合成洗剤が用いられている。そこで本報では各種の洗剤で洗浄した場合の染色絹布の洗たく堅ろう度について検討した。

2. J I S, L 1045に準じ、MS-1号(30±2°C, 10分間)機械法に基づいて洗浄し、洗浄乾燥後、試験片の変退色と添付白布(絹布、綿布)の汚染の程度を変退色用または汚染用グレースケールと比較して、その堅ろう度を判定した。なお、セッケンは0.5%溶液、合成洗剤は0.2%溶液として用いた。

3. 一般に合成洗剤(ライトデュティ合成洗剤、ヘビーデュティ合成洗剤)による洗浄ではセッケンの場合に比し染色絹布の洗たく堅ろう度の低下が大きく、特に酸性染料(含金属染料を除く)、直接染料、塩基性染料、

分散染料および酸性媒染染料などで染色した絹布ではその傾向が顕著に認められた。

しかし、反応性染料および建染染料などで染色した絹布では一般に洗剤成分（活性剤ならびにビルダーなど）の影響をうけにくく、各種の洗剤間の堅ろう度の差異が比較的少ない傾向を示すことが認められた。